生内義夫先生の作品（楽譜）の復元について

新5回生　**畑谷守良**

昭和28年秋、岩手県公会堂で生内義夫先生（S23～29年　岩手高音楽講師）作曲による交声曲「岩手山」等の演奏会が行われました。

舞台裏では、高校三年生の音楽部員が、当時普及し始めたオープンリール式のテープレコーダーで、演奏の録音にかかりきりでしたが、テープの容量の都合上、一曲だけを録音しました。

半世紀を経た昨年、仙台の石桜会ＯＢ同志の間で、この録音テープの存在が話題となり、新11回生の横田英司氏と親交のある、西宮市在住の佐川隆二氏（新6回生）が録音担当者で、そのテープを保持していることを知りました。そこで横田氏を通じて佐川氏に、是非聴いてみたいのでテープの貸し出しをお願いしたところ、快諾頂きました。

生内先生は昭和24年、「岩手フィルハーモニックソサエティ」というコーラスグループを結成され、交声曲三部作として「岩手山」「北上川」「三陸海岸」を作曲されましたが、幸い佐川氏はそれ以前の合唱練習時、「北上川」も録音されておりましたので、現存のテープはこの二曲ということになります。

この貴重なテープを入手したのが今年の1月末、以来ほぼ半年間、毎晩のように子守唄替わりに2曲を聴くことになりました。初めのうちは50年前を想い出し、懐かしんでいましたが、その後テープだけでは不完全なものであり、歌詞や楽譜を記録として残すべきと考えたのです。

先ずは採譜をと挑戦しましたが、所詮素人の悲しさで、主メロディは聴音・採譜と幾分復元できたつもりでも、伴奏部分特に幾つもの音が重なった和音になると、皆目見当がつきません。半ば諦めかけたとき、三十年ほど前の教え子に音楽大卒の谷川美智子さん（さいたま市在住）がいるのを思い出し、早速採譜の件をお願いしてみました。「やってみます」の快い回答に、原テープからの孫テープを送りましたが、テープの古さやダビングによる音質の劣化にもかかわらず、6月になって楽譜とエレクトーン演奏のテープが届けられました。

その楽譜はセミプロの手になるだけに、私には考えもつかない細かな点も聴き逃さず、専門的手法で採譜が施されておりました。

一方歌詞については、音源テープの保有者である佐川氏が八方探索するかたわら、母校の第4応援歌作成パートナーの吉田榮一氏（新7回生）の協力を得て、聴き取り・掘り起こしを進めていました。そんな矢先、作詞者の水原一先生（S22～24　岩手中　国語教諭）とのコンタクトが得られて、合唱発表会のプログラムが手に入り、ここでようやく「岩手山」「北上川」二曲の歌詞と楽譜が揃ったのでした。

余談になりますが、仙台石桜同窓会の役員会の席上でもこの歌詞・テープを視聴しましたが、会長の小林陵二氏（新3回生）が「自分もこのコーラスのメンバーだったんです」の言に一同大いに驚いたことでした。氏の記憶では「私の隣で歌っていた人が、声が大きくで時々つられそうになった」とのこと。その後の調べで、その声の主は「岩手山」ソロパートの石塚邦夫氏（故人・新1回生）であることが分かりました。

尤も、録音テープの方の男声ソリストは国立音大の清水義人氏であり、「北上川」の女声ソリストは当時の一関一高音楽教諭古藤高子先生（故人・S24～40同校在職）であることも判明しました。古藤先生の教え子の話によれば、「先生は授業の時、いつも生徒より早く音楽室に来て、ベートーベンやショパンのピアノ曲を弾きながら生徒を待っていましたっけ」と懐かしそうでした。

復元した2曲について、歌詞は完全なものですが、楽譜の方は混声3部合唱の主に高音部のメロディだけであり不完全です。また、生内先生は交声曲3部作と更にもう一部「平和」という曲を残したのですから、その内のまだ2曲しか録音採譜されておらないわけです。

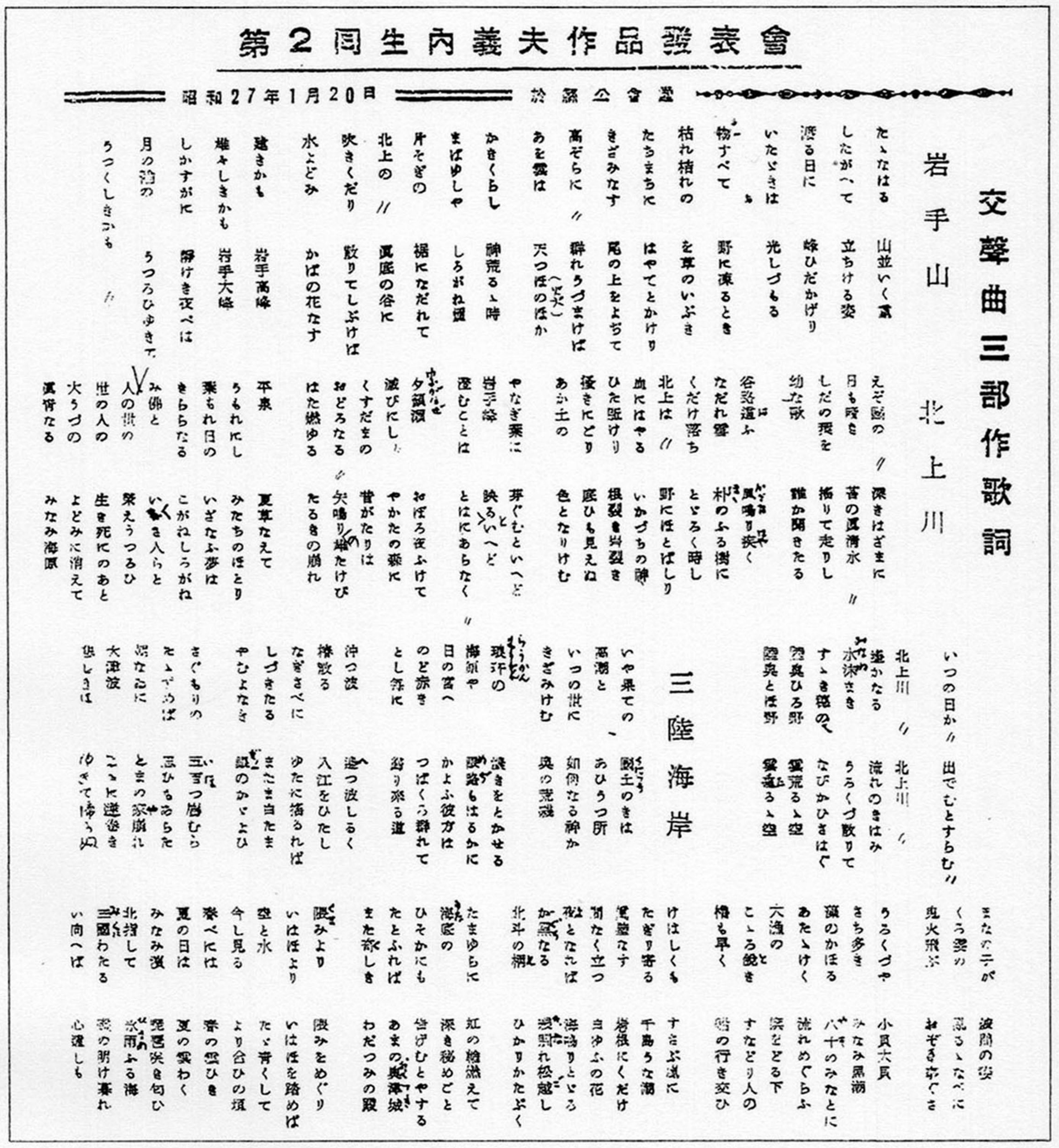
更に昭和26年11月、岩手中学・高校の創立25周年記念式典が挙行されました。その関連行事の一環として、生内義夫作曲・水原一作詞「創立25周年記念祝典カンタータ」が岩手高校グリークラブ男声合唱によって披露されましたが、その楽譜及び歌詞は会誌「石桜」48号に掲載されております。そこでこの楽譜を基に、再び谷川さんに演奏テープの作成を依頼しております。

また、生内先生が岩手中学に赴任早々の昭和23年のこと、当時中学2年だった5回生の音楽授業中「この歌は俺の作品だけど、唄ってみなさい」と短編2曲を唄わされた憶えがあります。おぼろげながらですが、妙にそのメロディが頭に残っており、なんとか譜面化して母校に残したい思いですが、この2曲についての記憶がどこまでも曖昧ですので、どなたかにお願いして正確な曲とすることが出来れば幸いなのですが……。

なお、生内先生が永年指導された「岩手フィルハーモニックソサエティ」による合唱でもありましたので、或いはメンバーの誰かが楽譜を持っていないか、誰かに当時の思い出話等聞けないかなどと尽きぬ興味が湧いてきます。更には「三陸海岸」と「平和」の楽譜探しが残されていますから、今後調査を続けたいと思っています。

ともあれ、幸いにしてまた思いがけず収集できました資料を、今回母校に寄贈できますことを何よりも喜びとするものであります。最後にこれら資料の作成に当り、多くの方々から情報提供頂きました。とりわけ横田氏からは多大の協力を頂きましたことに深く感謝致します。

資料収集並びに提供者
畑谷守良（新5回生）
佐川隆二（新6回生）
吉田榮一（新7回生）
横田英司（新11回生）



第2回生内義夫作品發表會

昭和27年1月20日　於縣公會堂

交聲曲三部作歌詞

岩手山

たゝなはる　山並いく重
したがへて　立ちける姿
渡る日に　峰ひだかげり
いたゞきは　光しづもる
物すべて　野に凍るとき
枯れ枯れの　を草のいぶき
たちまちに　はやてとかけり
きざみなす　尾の上をよぢて
高ぞらに〃　群れうづまけば
あを雲は　天つほのほか
かきくらし　神荒るゝ時
まばゆしや　しろがね嶺
片そぎの　裾になだれて
北上の〃　真底の谷に
吹きくだり　散りてしぶけば
水よどみ　かばの花なす
建きかも　岩手高峰
雄々しきかも　岩手大嶺
しかすがに　静けき夜べは
月の[illegible]の　うつろひゆきて
うつくしきかも　〃

北上川

えぞ國の〃　深きはざまに
日も暗き　苔の真清水
しだの葉を　揺りて走りし
幼な歌　誰か聞きたる
谷路這ふ　風鳴り疾く
なだれ響　杉のふる樹に
くだけ落ち　とゞろく時し
北上は〃　野に迸とばしり
血にはやる　いかづちの神
ひた駆けり　根裂き岩裂き
猛きにどり　底ひも見えぬ
あか土の　色となりけむ
やなぎ葉に　芽ぐむといへど
岩手峰　映ろいへど
澄むことは　とはにあらなく
夕顔瀬〃　おぼろ夜ふけて
滅びにし〃　やかたの森に
くすだまの　昔がたりは
おどろなる〃　矢鳴り雄たけび
はた燃ゆる　たるきの崩れ
平泉　夏草なえて
うもれにし　みたちのほとり
葉もれ日の　いざなふ夢は
きららなる　こがねしろがね
み佛と　いくさ人らと
人の世の　栄えうつろひ
世の人の　生き死にのあと
大うづの　よどみに消えて
眞青なる　みなみ海原
いつの日か〃　出でむとすらむ〃
北上川〃　北上川〃
遥かなる　流れのきはみ
水沫さき　うろくづ散りて
すゝき穂の　なびかひさはぐ
陸奥ひろ野　霧荒るゝ空
陸奥と[illegible]野　霧[illegible]るゝ空

三陸海岸

いや果ての　[illegible]土のきは
高潮と　あひうつ所
いつの世に　如何なる神か
きざみけむ　奥の荒磯
琅玕の　[illegible]をとかせる
海原や　[illegible]路もはるかに
日の宮へ　かよふ彼方は
のど赤き　つばくろ群れて
とし毎に　翔り来る道
沖つ波　逆つ波しるく
[illegible]散る　入江をひたし
なぎさべに　ゆたに落るれば
しづきたる　またま白たま
やむよなき　[illegible]のかゞよひ
さぐもりの　[illegible]むら
[illegible]　[illegible]
[illegible]に　とまの家崩れ
大津波　ここに逆巻き
恐しきは　ゆきて帰らぬ
[illegible]　波間の姿
くろ雲の　[illegible]なべに
鬼火飛ぶ　おぞき夜くさ
うろくづや　小貝大貝
さち多き　みなみ黒潮
藻のかほる　八十のみなとに
あたゝけく　流れめぐらふ
六浦の　浜をどる下
こゝろ鋭き　すなどり人の
櫓も早く　船の行き交ひ
けはしくも　すさぶ流に
たぎり寄る　千島うな潮
[illegible]なす　岩根にくだけ
[illegible]立つ　白ゆふの花
夜ともなれば　[illegible]
[illegible]なる　[illegible]松越し
北斗の柄　ひかりかたぶく
たまゆらに　虹の輪燃えて
海底の　深き秘めごと
ひそかにも　告げむとやする
たとふれば　あまの奥津城
[illegible]しき　わだつみの殿
[illegible]みより　[illegible]みをめぐり
いは屋より　いは屋を踏めば
空と水　たゞ青くして
今し見る　より合ひの頃
春べには　春の雲ひき
夏の日は　夏の雲わく
みなみ浜　[illegible]を匂ひ
北指して　氷雨ふる海
三國わたる　[illegible]の明け暮れ
い向へば　心[illegible]しも